

## 2018年度事業報告

### 【1】 コッペは30周年を迎えました

コッペが開業したのは、1988年12月8日。いろいろな人が共に働く場を作りたいという呼びかけがあったのは。その呼びかけに賛同した人たちで話し合いを重ね、できるだけ安心な材料でパンとクッキーを作る、色々な人が共に働く場にする、この2点を大きな柱に、コッペは開業以来運営されてきました。

安心な材料とは具体的に言うと、東北産の小麦を使うこと、オーガニック等の素材の原材料を使うこと、添加物をできるだけ使わないこと、遺伝子組み換えをされていない原料を使うことなどです。その基本を守ってきたおかげで、根強いファンの皆様に支えられて商売しています。

もう一つの柱、「色々な人が共に働く場」ということは、今は障害のある人が多く働くようになり、「障害のある人も共に」がメインになっていますが、当初の「色々な」には、もっと広く社会的に弱い立場にいる人と共にという意味合いが強くありました。そもそもコッペをやりたいと言い出した人は、在日韓国人を支援する団体の人だったのです。色々な人が働くコッペをやることで、差別のない社会をつくりたい。その差別は、障害者差別にとどまらず、在日韓国人に対する差別、女性差別、ホームレスの人に対する差別、性的少数者の人に対する差別、部落差別等々、あらゆる差別をなくしていきたいということでした。

さて、コッペは何を残してきたのか。継続してきたこと自体評価していいことだと思いますが、当初の思いはどうなっているのか。差別に対するアンテナが弱くなっていないか。また、社会に対する働きかけもそうだが、共に働くの内実はどうなっているのか。障害のあるなしに関わらず、互いをどう尊重し、どう理解していけるのか。

正直30年近くなってもあまり進歩がないような気がします。

それでも当初3人から始まって、今は20人以上の人が働き、売り上げも公的な補助金も、初めたころとは比べものにならないくらい大きくなりました。それなりにみんな仕事を楽しみ、平均工賃も5万を超えました。

なにより30年近くコッペを続けてきたおかげで、地域の皆さんにも認められ、コッペに通ってくる障害当事者の姿も当たり前前の風景として街に根付いてきています。施設として特別な目で見られることなく、あそこのパン屋さんで働いている人として。障害者も地域の中で共に生きるということを社会に訴える何よりの実践であろうと思います。

しかしながら、今後の10年・20年のビジョンを明確に描けていないのも現状です。今後数年をかけて考えていかななくてはなりません。

特に同じような時期に始まり、同じ規模でやっている結の会さんのお話はコッペが抱えている問題と共通のものも多く、課題に取り組むうえでこれからも協力していきたいと思います。

### 【2】 30周年記念イベント

30周年を記念してシンポジウムとパーティを仙台サンプラザで行いました。コッペ単

独としてこれだけ大掛かりなイベントを行ったのは初めての事でした。

シンポジウムは共に働くをテーマに、コーディネーターに神戸のプラスリジョンの福井佑実子さん、シンポジストに滋賀の共生シンフォニーの中崎ひとみさん、八王子のNPO法人結の会の脇田泰行さんをお迎えして行いました。

おかげさまで、シンポジウムには150人、引き続いて行ったパーティには120人の方に参加していただき有意義なものでした。何よりみんなで楽しむことができました。

反省点としては、ご祝儀を頂いた方の参加費の取り扱いが検討不足だったり、スライドショーも良かったが、一人一人の紹介も入れるなどしても良かった、せっかく作った名刺を十分に配れず残念、配慮が必要だった等の反省点もありました。決算は、ご祝儀もあり持ち出しは30万弱ほどでした。

また、こういう機会も必要、5年後に規模は小さくともやってもいいのではという意見もありました。

なお、共同連全国大会がモンゴルで行われるのに合わせ、30周年の一つとしてコッペを1週間休みにし、有志でモンゴル大会に参加してきました。

### 【3】理事会

計9回行いました。30周年イベントの検討を中心に売上・収支状況・販売・行事予定・会員の状況・ショップについて、麦の穂の発行といった議題等について話し合いました。コッペでは、みんなで運営を考えていこうというスタンスでやってきました。理事会には都合がつく限りみんなに参加してもらいたいと思います。

### 【4】会員（2019年3/31現在）

正会員24名、賛助会員・寄付者129名（昨年度より7名増）

2018年2月1日を持って認定NPO法人として認められました。認定の有効期間は2023年1月31日まで。更新申請は、2022年の総会が終わってから8月ごろに行うこととなります。

認定NPO法人として継続するためには、年3,000円以上の賛助会員・寄付者が平均で100名以上いることが最低の条件です。安定して認定の条件をクリアするためにはさらに寄付者・賛助会員の増加が必要です。

多くの方にご協力の働きかけが引き続き必要です。

### 【5】社会教育の推進

① 会報「麦の穂」の発行 計4回 それぞれ250部前後

2018年 5月 9月 12月 2019年3月

今年度は予定通り4回発行できました。モンゴル大会の報告・30周年の報告と内容も例年より充実していたと思います。また、新たな題字をメンバーのKさんの妹さんが作成してくれました。

賛助会員の確保のためにも会報は大切です。しっかり定期的に発行したいと思います。随時原稿を募集します。

## ② ボランティアの受け入れ

認定NPO法人杜の伝言板ゆるるが主催している「高校生の夏ボラ体験」の受け入れ先となっています。毎年8名程度の方が体験に来られています。他に、中学生の職場体験、仙台市のNPO留学の受け入れも行いました。

## 【6】就労継続支援B型「コッペ」の運営状況

### ① 開設状況

開設日数は、257日／年、利用者延べ数は、3,715人（昨年254日／年、利用者延べ数は、3,728人）となっています。コッペの定員としては、20名。在籍は18名、一日当たりの平均利用者数は、14.5人（昨年14.7人）となります。それを支えるスタッフは、常勤5名、パート3名です。それに区役所販売等を手伝っていただけるボランティア方々等に、協力して頂きました。多くのメンバーにも外へ出てもらおうと、配達・販売にもこれまで行っていなかったメンバーも参加してもらいました。土日のイベント販売時には障害メンバーも参加してもらえるとありがたいです。

### ② 売り上げ

パンとクッキーの売り上げは、約2,219万／年（仕入れ販売約200万を含む）、月平均185万となっています。2017年度の売り上げからは約160万上がりました。30周年に合わせあいコープみやぎなどに積極的に新商品を提案したことやイベントにも多く参加することが要因です。これからも売上をどう確保していくのかは大きな課題です。

### ③ 訓練等給付費収入

2018年度は2,883万円ほどとなりました。前年度より約54万下がりました。報酬が改定され単価が8単位下がったことと平均利用者数が若干下がったことが要因です。

新しく1名増員するか検討が必要です。

### ④ 工賃

障害メンバーの給料は、最高で73,000円最低14,000円、平均約51,877円となっています。平均は昨年とほぼ同じです。コッペの目的とする共に働くことの具体的な現われが工賃の金額です。その目標が達成できないのでは、コッペをやっていくこと自体の意味がありません。そのためにも売り上げの増加が必要です。

### ⑤ 収支状況

収支としては、約130万の赤字となりました。売り上げは増えましたが、2017年度にあった労働関係の助成金がなくなったことや給付費の減少などトータルでは収入は減収になりました。一方、法定福利費を含めた人件費の増加、30周年の経費等、支出は増加しました。

寄付金等もあり300万ほどの黒字だった2017年度が例外で、それ以外の年度は厳しい収支状況にあるのが現状です。

### ⑥ コッペショップ

障害メンバーも一緒に店番・外販することが定着しました。月・水のミーティングの際に、次週以降の販売・店番を決めるようにしています。店番に関しては、お客さんが

来ない時の仕事をどのように構築するかが課題となっています。

## ⑦ホームページ

認定NPO法人になったことによるホームページの修正もできています。法改正に合わせて、貸借対照表などもホームページ上で見る事が出来るようにしました。フェイスブックは、主にイベントの告知等で活用しています。フェイスブックへの投稿がホームページに反映されるようになっていきます。麦の会ページへの「いいね」は400人を超えました。

## ⑧放射能検査

みんなの放射能測定室でとてとに検査に出しました。検出限界は10ベクレルでいずれも不検出となっています。今後も定期的に検査に出し、安全性を確かめます。

原発に対しては、食品の安全という面でも反対の運動に協力していきます。

## ⑨食品表示・衛生管理

栄養成分表示の義務付けに対応するために、クッキーに関しては全種類検査に出し、パンについては、カロリーアンサーを利用して検査が終了しました。表示に反映ができています。

今後はHACCPの考え方に基づいた衛生管理が義務化されます。そのためのマニュアルの作成と記録の整備が必要になります。

## ⑩レクレーション・研修

- ・共同連モンゴル全国大会 7月24日(火)～21日(土)
- ・一泊旅行 2018年度は行ないませんでした
- ・いちえさん食事会招待 7月22日(日)・2019年1月6日(日) 終了後カラオケ
- ・楽天招待 ゴールドマンサックス証券様より(宮城県社協を通じて)  
協賛企業様より(東北福祉大を通じて)

## 【8】生活支援

2017年度にグループホームの勉強会と見学を行いました。その中でコッペに20年以上関わっているMさんが、2018年3月よりグループホームで生活を始めました。会としてグループホームへの取り組みを始めた中で、結果としてMさんの新たな生活を後押しできたことは嬉しいことでした。大変なことも多くありましたが、グループホームでの生活を続けています。引き続き応援したいと思います。

ただ、会としての取り組みは2018年度は行ないませんでした。

一方、移動支援を利用するメンバーは増えています。ショートステイを利用する人もいます。

麦の会として生活支援をすぐに行うという状況ではありません。地域の資源を活用して経験を増やして行ってほしいと思います。

## 【9】NPO法人フルハウスとの連携

コッペの直接の運営母体は麦の会ですが、障害者総合支援法上は、NPO法人フルハ

ウスが運営する形になっており、訓練等給付もフルハウスを通じて入ってくる仕組みとなっています。給付費の請求事務は、もとなるデータはコッペで作成し、国保連への請求はソレイユから行っています。それに対して月1万円の事務手数料をソレイユに支払いしています。

フリースペースソレイユでは、2018年の秋からグループホームを立ち上げました。中古住宅を買上げ、男子5名定員での運営です。始まったばかりですので、世話人の確保や支援方法等大変な面もありますが、引き続き情報をもらいながら連携していきたいと思えます。

## **【10】NPO法人共同連並びに東北ブロックについて**

NPO法人共同連は、コッペの立ち上げからお世話になってきました。全国の共に働く事業所の団体です。

2018年度大きなトピックスはなんといっても共同連の全国大会がモンゴルで行われ、麦の会からも総勢8名で参加したことです。道中いろいろありましたが、新鮮な経験でした。全国からの参加者との交流もでき有意義だったと思います。

またコッペ30周年にも共同連から多くの方が参加していただきました。

共に生き働く社会の実現は自分のところだけではできません。これからも各地の仲間と共に取り組んでいく必要があります。